

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4291100024		
法人名	有限会社 スローライフ・プランニング		
事業所名	グループホーム 時津ぎんなん		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町子々川郷3504-3		
自己評価作成日	平成27年12月29日	評価結果確定日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JijyosvoCd=4291100024-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JijyosvoCd=4291100024-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成28年2月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域密着型のホームであり、運営推進会議には、自治会長を始め民生委員、時津警察署の方や認知症と家族の会など地域の多種多様な職種の方に参加して頂いており、色々と専門的な意見を得られる環境にある。ホームではターミナルケアを行っており、地域のドクターや訪問看護、歯科医等の連携や協力もある。また、利用者の様子やホームでの行事などを毎月、ご家族に「時津ぎんなん便り」という形でお伝えしている。利用者は、かかりつけの病院にお連れしているが、高齢の利用者や麻痺があり受診するのが難しい利用者の方は、大石共立病院の先生が訪問にて診察に来て頂いている。利用者へのケアについては、本当の思いに気付き、アセスメントやモニタリングを行い、統一したケアができるように支援させて頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

車いすで散歩できる範囲にぶどう園や菜の花、桜等、季節の花が咲き、施設や居室からは、田んぼや田んぼに咲く蓮華草、蛍が見えるように窓にこだわる等、四季を感じながらゆったりと生活する環境が整っている。理念が職員に浸透し、理念に沿った具体的な支援を職員一人ひとりが考えながら実践している。この職員の考える力は仕事への意欲に繋がっている。運営推進会議を通して行政機関や基幹病院、地域住民との繋がりがりや病院との連携等、各専門性を活かすことで、地域との交流を深めている。警察署との連携で町内ハザードマップを用いて防災に力を入れる等、今後、地域の拠点として期待される施設である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である<敬意・傾聴・受容・寛容・愛情>については、事務所内に掲示し、いつも確認できる状況である。本年度は、パーソンセンタード・ケアを実践するという目標で、利用者への支援を心がけている。	代表や施設長が全体ミーティング等で常に理念について説明している。理念に基づき、全職員で今年目標を話し合い、職員一人ひとりが、言葉かけや接し方等、理念に沿った支援を考えながら実践している。声かけ等で気になる事があれば、その都度、管理者が注意をして理念に沿った支援が浸透するように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会の防災組織に参加し、防災訓練や行事にも参加させて頂いたりして、地道に地域に溶け込む様に努力している。また、こども110番の家に登録し、地域の方も、ホームの事は認知して頂いている状況である。敬老会にも自治会長を通じて近所の方に参加頂いた。	自治会の防災組織に加入して会議に出席する、自治会の防災訓練時に、施設の話をする、地域の行事に参加して地域の人たちと一緒に食事をする等、地域住民に施設を理解してもらおう努力をしている。この事で、入居者の地域とのふれあいや職員のコミュニケーションの場が広がり、地域住民と助け合っていく気持ちを職員が持てるようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	労働安定センターから実習生を受け入れたりして積極的に協力させて頂いている。また、運営推進会議を通じて参加して頂いている地域の自治会長や民生委員の方などに認知症の方への理解を頂くようお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開催しており、自治会長をはじめ民生委員や時津警察署の方や認知症と家族の会の方・時津町役場の高齢者支援課の方・包括支援センターの方との交流も増え、ホームでの利用者の様子についてお伝えしたり、各有識者と意見交換をさせて頂く事で、サービスの向上に努めている。	自治会長や警察署、消防署、役場の担当者、認知症と家族の会、基幹病院、民生委員等、多種多様なメンバーで構成されている。「こども110番の家」に登録する、「認知症の方への交通安全講習」の情報を得る、「町の防災ハザードマップ」を使用して防災の話をする等、運営推進会議で専門的な意見や情報を得ることで、地域との交流を深め、地域の拠点となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、時津町役場の高齢者支援課の方や包括支援センターの方が毎回参加して頂いているので、何かあったら相談させて頂いたり、情報を共有させて頂いたりしている。	役場の主催で自治会長や地域の人たちが、他市が企画する福祉事業の視察に行き、運営推進会議で発表する、地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」(小学校、企業、消防署、警察署参加)で、認知症への理解を深めるために施設長が話をする等、市町村との協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	長崎県の身体拘束・虐待の研修に参加したりして、身体拘束・虐待の具体的な禁止行為は理解している。利用者にとって生活しやすい環境を考え、自由に行動できるようにしている。	身体拘束・虐待の研修を行い、職員一人ひとりが身体拘束・虐待に対する意識を持っている。研修では、「身体拘束」や「言葉による抑制」等を分かりやすい表現で職員に伝えて日々の支援に繋いでいる。外部研修の中で学んだことを活かし、車いすで自走しやすいように机の位置やリビングの配置を考え動線を確認する等、安全を確認しつつ自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやカンファレンスにより職員は虐待については理解しており、利用者へ言葉がけや支援をする時は、敬意を持って行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、権利擁護についての理解は、研修などを通して理解はしている。現在は、まだ活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つ内容を確認しながら説明を行っており、納得を頂いている。また、改定がある時には文章でお知らせして承諾を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでの行事にはご家族に積極的にご案内し、参加して頂いている。運営推進会議にもご家族の方に参加して頂き、ご意見を頂いている。また、面会に来られるご家族も多く、日々の様子をお伝えしながらコミュニケーションをとっている。	家族の面会が多く、面会時に家族の要望や意見を聞き、入居者の様子を細かく伝えている。家族からの「楽しく生活をしてもらいたい」との要望を受け、カラオケを導入し、音楽を聞いたり、歌が好きな入居者には、歌を歌う機会を増やす、カラオケの映像に合わせて体操をする、昔の長崎の映像を流すことで、入居者間の会話が増え、以前より物事に集中できるようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な職員間の業務については、連絡ノートを使い職員間の意識の統一をはかっている。また、職員の意見については、カンファレンスなどの時に聞いたりしている。	職員が意見やアイデアを気楽に出せる環境を作り、職員のアイデアで行事を開催する等、職員の気付きを活かして服薬を工夫する等、職員の意見やアイデアを運営に活かしている。また、職員が気付いたことや入居者の変化等を連絡ノートに記載し、職員間で支援方法を考えている。職員の考える力が、サービスの質の向上や仕事への意欲に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の忙しさを理解して頂き、電話やホームに来て、労いの言葉をかけられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長崎県主催の様々な研修や、介護福祉士会主催の研修に参加したり、西彼保健所での口腔リハビリの研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会主催の研修や、口腔リハビリの研修・運営推進会議を通じ、各専門職の方との情報交換や、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴したり、らしさシートを使い、利用者の本当の思いに近づける様に、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方とのコミュニケーションを図っていく中で、不安や困っている事・要望などを確認し、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応としては、基本情報を重視するが、ご家族やケアマネージャーからの新しい情報や、本人やご家族との話の中で必要としている支援を考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護する立場ではあるが、介護をしていく中で色々な事を利用者から学ぶ事も多く、人生の先輩として教えて頂いているという気持ちがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者を介護するにはご家族の協力がないと難しい事はわかっており、ご家族に対しても、積極的に関わりを持つ様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型のホームであり、以前住んでいた地域の方やお友達も面会に来られる事もある。利用者からの希望があれば行きつけの美容院にお連れする事もあり、基本的に以前から通院していた病院にお連れする様に考えている。	入居者や家族からこだわりや大切なものを聞き、絵や写経を続ける、友人の訪問、家族と墓参りに行く、入居者が希望する所に車で連れて行く等、親しみを持っている人や場所との繋がりを継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が好きな様に時間を過ごされ、利用者でかるたをされたり、風船バレーをしたり・カラオケなどをして楽しく過ごされたり、洗濯物を一緒に畳んでもらったり、新聞を折って頂いたりしてその支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく入院などで退所しなくてはならなくなった利用者についても、様子を見に行っている。また、ご家族とも連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	らしさシートやひもときシートを使い、利用者の本当の思いに気づく様に努めている。出来る事や出来ない事を職員が共有し、自立を促しながら、出来ない事への支援を行っている。	入居時の面談時に家族や本人の思いを確認しておく。らしさシート、ひもときシートを利用し本人の思いを日頃より把握し、意向に沿うような環境を整えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を把握し、利用者やご家族に、ホームに入所される前の様子や生活環境について聴くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	らしさシートにより、利用者ができる事、出来ない事の把握に努めている。また、日々の利用者の表情やバイタルにより状態の把握に努め、申し送りや連絡ノートにて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で気づきや伝えたい事があれば、記録に残し共有している。医療機関や職員などの意見を考慮し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の記録を職員全員がシートにまとめ一人ひとり情報を共有している。ドクターや家族とも連携し意見を取り入れ、介護計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに対する結果・考察・課題については、ひとりひとりのケース記録に記入し、職員間で内容を共有し確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の様子を見守り、状況により主治医に相談したり、アドバイスを頂いたりしている。状況により訪問看護を依頼する時もある。柔軟な支援や対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りは田んぼや畑があるのどかな場所であり、ぶどうや枇杷がなる環境である。近隣を散歩した時は、近所の方にあいさつしたり、のどかな風景を観て、ゆっくりとした時間を過ごして頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からかかっていた病院に受診にお連れしたり、高齢の方や受診が難しい方については、訪問診療をして頂く様に提携している病院をお願いしている。医師との情報交換もできており、日頃の様子を記入した記録を持参して説明し、把握してもらう様な体制をとっている。診療の状況については職員間で共有している。	入居時に馴染みの医療機関を確認する。往診が必要な時は連携し、医療情報を共有している。入居者一人ひとりに合わせて、病状を把握し安心して医療継続ができるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師が不在の為、利用者の体調に変化があった時には主治医に連絡し、アドバイスを頂いたり、病院にお連れしたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時に安心して治療ができ、早期に退院できるように、医師や医療ソーシャルワーカーや看護師等と情報交換や相談に努め、病院との関係づくりをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、入居時にご家族から同意書を取得している。これまでに看取りも行っており、家族の希望に沿ったケアが出来る様に、日ごろから主治医や訪問看護師との連携をはかり、支援をしていきたい。	入居時に終末期ケアの確認し同意書の作成をしている。職員に看取りの経験があり、医師や訪問看護師との24時間体制、職員と連携しながら支援ができる環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、緊急時の対応についての研修を行い、応急措置や初期対応について研修を受けている。また、AEDの使用についても研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防火管理者が年間計画を立て、毎月防災訓練を計画している。ホームは、地滑り地帯に隣接しており、運営推進会議でも自治会長から避難場所の確認や事務所にハザードマップを貼り、職員間で確認している。また、通報装置やスプリンクラーも設置し、カーテンも防災になっている。日々、自主点検表も記入しチェックしている。年に2回消防署との避難訓練を行っており、警察署員や自治会長も参加して行った。	火災や地震、水害も想定した防災訓練が行われている。日頃から雨が降ったらどうなるかなど地域の方たちとも環境を確認している。防災素材で環境を整え、備品や食料もきちんと備蓄し、色々な災害に備えている。	地域に対して、グループホームが避難所としての提供を求められている。馴れ合いで避難所にするのではなく、具体的な支援体制が整えていくような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念や目標にも掲げているが、「パーソンセンタード・ケア」を意識し、利用者に敬意を持ち、利用者に寄り添った言葉かけをするように心がけている。	日頃から馴れ合いの言葉かけにならないよう職員間でも注意をして支援が行われている。入居時、入浴時の同姓介助なども確認をし、入居者の気持ちに沿った支援を行っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ主体の思いを利用者に押しつけず、利用者が本当の思いを表しやすい環境を整え、利用者自身が決定できる様に働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、各利用者のペースを把握し、利用者が何を希望しているのかを考えた上で、支援に結び付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを支援している。また、近所の理髪師の方に来て頂き、ホーム内で散髪をして頂いている。また、希望があれば行きつけの美容院にお連れする時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回は栄養士が食事を作り提供している。残りの5回は委託業者に宅配を頼んでいるが、ご飯と味噌汁はホームで炊いている。また、食事状態に合わせて刻みやとろみをつけて提供している。食事の時は、職員も一緒に同じ物を頂き、下膳ができる方には自分でして頂いている。	栄養士による調理や配食を取り入れ、食事の支援をしている。ホットケーキやフルーチェなど入居者とおやつを作ったり、季節に応じた食事を取り入れるなど楽しみある献立を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談しバランスの取れた食事を提供している。利用者の食事量や水分量はケース記録に記入し職員間で確認している。特に水分については脱水症にならないように職員間で注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に利用者一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行い支援をしている。気になる事があれば提携歯科医に連絡し、病院にお連れしたり、訪問診療に来て頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子を見ながらひとりひとり言葉がけをしてトイレにお連れしている。もしも失敗された時は、羞恥心や不安を感じさせないようにやさしく言葉をかけ支援している。	日中オムツの方もリハビリパンツで過ごす方もトイレ誘導をして自力で排泄できる環境を整えている。パット交換も自力でできる方は行いその方の能力に合わせて自立できる工夫や環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行が可能な方は、日中にリビング内を歩かれたり、乳製品を召し上がって頂いたりしている。また、水分はしっかりと摂って頂いている。また、主治医に処方について相談する時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴をさせてあげたいという気持ちはある。利用者の様子やタイミングに合わせて支援しており、できるだけ入浴して頂き、入浴剤を入れたりしてゆっくりと楽しんで頂いている。	機械浴を取り入れ、麻痺がある方でも負担無く入浴できる環境を整えている。入浴拒否があっても無理せず、その方の意思に応じて随時対応し、入浴剤など楽しく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの様子や状況を意識して、利用者が安眠してもらえる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬の目的や用法について理解している。様子に変化がある時は、薬情報を確認し、主治医に様子を伝え相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、ホームにて楽しく過ごして頂けるように、できる事に目を向け、洗濯物を畳んで頂いたり、新聞を折って頂いたり、お茶をパックに入れて頂いたり、かるたやカラオケをして頂いたりして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩したり、車でドライブに行ったりしている。病院への受診の時の外出も支援している。家族にも協力を頂き、外出する時もあり、利用者が希望する場所に出かけられる様に支援していきたい。	天候や気分に合わせて外出したいときは、積極的に外出ができる環境を整えている。通院時や、買い物、散歩に連れ出すなど個別や少人数で対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金という形で必要なお金は、家族の同意でホームの金庫で管理している。利用者の希望や必要な時は職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたいという要望があれば、職員が支援をするが、最近は電話をかける機会も少なくなっている。ご家族も時間を作り、面会によく来て頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井も高く、リビングの照明も明るい。食事の時は、リラックスできる様に音楽を流しながら召しあがって頂いている。また、リビング内の温度や湿度については、温度計や湿度計を確認したり、直接利用者確認しながら調整をして、快適に過ごして頂くように配慮している。	明るく自然な光が取り込めるよう建物が工夫されている。入居者の方に室温を尋ねたり、加湿器やタオルを干したり加湿にも気を配っている。馴染みの音楽がながれ、入居者の方々と共に同じ空間を楽しみゆったり過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者がお話や食事をして楽しんで生活して頂く為に、座る席は職員間でよく検討してから決めている。利用者には、それぞれゆっくりとした時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい環境に早く馴染んで頂く様に、ご家族に馴染みの物を用意して頂く様にお願いしている。昔の写真などを持ってきて頂き、日々のケアに使わせて頂いたりしている。また、ホームでの様子を写真に収め、居室に飾らせて頂いている。	窓が大きく設置されており、季節感や自然な光を取り入れている。馴染みの家具や家族の写真が飾れ、一人ひとりの人生がゆっくり過ごせる環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ICFの視点でアセスメントを行い、自立して生活ができるように建物内部はバリアフリーになっている。また、リビング内のテーブルの配置については、福祉住環境コーディネーターの職員が安全性を考えながら配置をしている。		